

第163回くらしの植物苑観察会 2012年10月27日(土)

- 「洛中洛外図屏風にみえる植物」 -

小島 道裕 (国立歴史民俗博物館研究部 歴史研究系 教授)

洛中洛外図屏風は、室町時代後期から江戸時代にかけて盛んに作られ、京都の名所や町並み、そしてそこに生きる人々のくらしを描いた絵画として知られています。そのひとつの源流は、月ごとの風物を描いた「月次(つきなみ)祭礼図」「月次風俗図」と呼ばれる絵画にあり、大和絵の重要な画題である四季折々の風物という要素は、洛中洛外図屏風の中にも見て取ることができます。

ですから、洛中洛外図屏風の中には、名所と関わって描かれた植物、季節の移り変わりを表わした植物、人間の生活や風俗に関わる植物、といった形で、さまざまな植物が描き込まれています。

安土桃山時代ころには、洛中洛外図屏風から、人間を中心とした風俗画が派生していきますが、当初は花見や紅葉狩りなどの野外での遊楽を描いた作品が多く、市街を描いた作品にも、さまざまな風俗の中に、植物との関わりが描かれています。

絵の中の植物を探しながら、当時のくらしに思いをめぐらせて見たいと思います。



近衛邸の糸桜 (「洛中洛外図屏風歴博甲本」より)

.....
次回予告 第164回くらしの植物苑観察会 2012年11月24日(土)

「菊花のかたち」 平野 恵 (東洋大学 非常勤講師)

13:30~15:30 (予定) 苑内休憩所集合 申込不要